

・受難節第四主日

# 泉のほとり

今月の詩編 「第三十一編」

主の慈しみに生きる人はすべて、主を愛せよ。  
主は信仰ある人を守り

傲慢な者には厳しく報いられる。



## 行う業が証している

ユダヤ人は主の周りを囲み、「いつまで、私たちに気をもませるのか。もしメシアなら、はつきりそう言いなさい」と言いました。主は「わたしは言つたが、あなたがたは信じない。わたしが父の名によつて行う業が、わたしについて証をしている。しかし、あなたがたは信じない。わたしの羊ではないからである」と答えられました。

更に「わたしはわたしの羊たちに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、誰もわたしの手から奪うことはできない。

わたしの父がわたしにくださつたものは、すべてのものより偉大であり、誰も父の手から奪うことはできない。わたしと父とは一つである」と示されたのです。

ところが、この主のことば、「あなたがたは『わたしの羊』ではない」と言われたユダヤ人たちには「わたしの羊ではない、あなたがたは永遠のいのちから締め出される」と聞こえたのではないでしようか。ユダヤ人たちは打ち殺そうと石を取り上げたのでした。「神を冒涜したからだ。人間なのに自分を神としているからだ」と言つたのです。主は「あなたがたの律法に、『わたしは言う。あなたがたは神々である』と書いてあるではないか。神のことばを受けた人たちが、『神々』と言われている。聖書が廃れることはない。それなら、父から聖なる者とされて世に遣わされたわたしが『神の子である』と言つたからとて、どうして『神を冒涜している』と言うのか」と反問されたのです。

創世記のはじめに、神は天地を造られ、よいもので満たし、最後にご自分に似せて人を造られました。ところが、3章で蛇が女に「食べてはならない。食べると死ぬ」と言われた、善惡を知る木の実を食べさせようと「決して死れない。食べると、あなたたちの目が開け、神のようになるからだ」と唆しました。人は元々神の似姿に造られた神のようなものでした。

主は「神のことばを受けたたちが『神』と言われている」と語られました。しかし、堕落した人は、神のことばではなく、神のようになる」とは陰湿、悪質な偽りです。

く、それぞれ自分の善と惡、自分の正しさ、義による「自分の言葉」を生きているのではないでしようか。神のよしとする神の国ではなく、それぞれ自分がよしとする國を築いて生きることは、「自分を神」として生きることです。人は口で「自分は神だ」などとは言いませんが、この世での自分の榮光を求めるそれぞの生き様、その業が「自分こそ神」と語つていいないです。主は言われました。「わたしが父の業を行っていないのであれば、わたしを信じなくともよい。しかし、行っているのであれば、わたしを信じなくても、その業を信じなさい」と。

生まれつき盲人の目を開けたこと。大勢の病人を癒やし、惡靈を追い出された数々の主の御業は、ご自身、神から遣わされた事實を証するものです。注目すべきは、主は「ご自分の栄光」のために、ご自分を「神」とし、世の人々が「神の子」と称賛するようになるとするために、それらの業を行われたではありません。同様にこの方の声を聞く羊たちも跡跡や現れる力そのものに注目し、世の人々が「神の子」と称賛するようになりました。特にこれまで見てきた生まれつきの盲人に關して言えば、目が開いた時の喜びは言い表せないほどだつたでしょう。しかし、それよりも彼の心を完全に捉えるものがあつたのです。主が自分の目を開けたその業ゆえに断罪されたのです。命を惜しまず、自分を探し出すために、殺そと狙つている人々のところへ来られたのです。やがて主は十字架で死なれるのです。人の罪のため、羊の代わりに。そして生きるのです。しかし、私たちは自分の榮光を求めて生きるものです。そして、自らを神としないその姿として生きるのです。しかし、私たちは自分の榮光を求めず、十字架のことばに聞き従うもの、その神の國を求めて生きるものです。そして、自らを神としないその姿に神のように造られた、「神」と呼ばれるほどの輝く光の姿が示されています。

2023年度

## 教 会全體課題

協会共同訳

タウ（ヘブライ語の第22番目の  
アルファベット名称—この

169節～176節はヘブ  
ライ語聖書でタウから始  
まっている。）

日々聖書に聞き、

御言葉に従つて歩む。

一六九 主よ、私の叫びをあなたの前に近づけてください。  
あなたの言葉に従つて悟らせてください。

一七〇 私の願いがあなたの前に届きますように。  
あなたの仰せのとおり、私を救い出してください。

一七一 私の唇から賛美が溢れます。

あなたはその揃を教えてくださいます。

一七二 私の舌はあなたの仰せを歌います。

あなたの戒めはすべて正しい。

一七三 あなたの手が私の助けとなりますように。  
私はあなたの諭しを選びました。

一七四 主よ、あなたの救いを慕います。

あなたの律法は私の喜びです。

一七五 私の魂が生きてあなたを賛美しますように。  
あなたの裁きが私を助けてくださいますように。

一七六 私は失われた羊のようにさまよっています。  
あなたの僕を搜してください。

私はあなたの戒めを忘れません。

（ペテロの手紙一 2章2節）

## 2023年度 心に刻む御言葉

生まれたばかりの乳飲み子のように、混じ  
りけのない靈の乳を慕い求めなさい。これ  
を飲んで成長し、救われるようになるため  
です。

## 『詩篇119編を読む』

## 『今日のお知らせ』

○一二時一五分(目途)から地下ホールで役員会が行  
われます。

○三月総会資料と役員選挙投票用紙を配布しました。  
投票は一七日(日)正午まで教会事務所で受け付  
けます。

○次週一七日は三月教会総会が行われます。

○この一年、受けた恵みを原稿用紙一枚(八〇〇字)  
以内でお書きいただき、「ご提出ください。メー  
ルでの提出も受け付けます。

アドレスは「tent@gloria-chapel.com」です。

## 『ぶどうの会より』

礼拝後、ぶどうの会をカナンルームで行います。

## 『手仕事の会オリーブより』

次週、三月一七日(日)の、午前一〇時から一〇時  
二〇分の間、一階ロビーにて、濫澤姉制作のイー  
スター向け刺繡カードなどを販売いたします。

## 能登半島地震救援募金について

2月25日(日)、3月3日(日)の礼拝後、能登半島地震救援募金を集めました。総額212,373円が集まりました。皆さまのご協力ありがとうございました。

月報2に記載があつたように、宮間兄の神学校時代の同級生が被災地におられます。日本基督教団輪島教会牧師の新藤豪先生です。3月5日(火)に先生に電話で、お話を伺いました。

先生によると、「教会棟は全壊、牧師館は中規模半壊しました。現在も両建物は崩れたまま、電気、ガス、水道なども復旧の目処は立たず、避難所での生活が続いている。水、食料をはじめ生活物資は支給されています。また建物の解体、再建に関して行政に公的支援を申請したものの、宗教施設はどれほど支援が受けられるかが不透明で、かつ日本基督教団からの支援額もまだ決まっていないため、今後のことを考えるとても厳しい状況にあります」と伺いました。

お話を受けて、輪島教会宛に募金をお送りし、送金したことをお伝えしました。新藤先生からは「厳しい現状にある中、支援をいただきありがとうございます。キリスト品川教会の皆さまに宜しくお伝えください」とのお礼がありましたことをご報告致します。

## 役員会より

今回の役員選挙は郵送での投票も有効になりますが、その際にも投票用紙原本を用いて投票してください。投票用紙の画像のメール添付やファックス送信等は無効です。

## 教会事務所より

### 役員選挙投票用紙について

遠隔地等にお住まいで期日前投票をご希望の方は事務所へご連絡ください。

ご依頼いただいた方については郵送手配をいたします。郵便配達は日数の制限を受けますので、郵送依頼受付は一日(月)までとさせていただきます。(土日の郵便配達がありませんので、投函はお早めにお願いします。)

## 今後の予定

○三月一五日 附属幼稚園卒園式

○三月一七日 三月教会総会

○三月二八日 聖晚餐礼拝(午後七時より)

○三月二一日 イースター礼拝

(午前九時半、

一一時からの二回礼拝)

## 今日の子ども礼拝

説教 「怒りの杯を前にして」

聖書 マタイ26章36～46節  
説教者 吉村和雄名誉牧師

## 次週の礼拝

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「見捨てられたキリスト」

聖書 マタイ27章15～26節  
説教者 吉村和雄名誉牧師

●主日礼拝(午前10時30分)

讀美歌 143番 279番

説教 「わたしは復活であり、いのちである」

聖書 ヨハネ1章1～16節

38～44節

説教者 黄允湜牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 142番 336番  
説教 「地を生かし、世を照らす人々」  
聖書 マタイ5章13~16節(新約P.6)  
司式 山下純一兄  
聖餐司式 黄允湜牧師  
説教者 吉村和雄名誉牧師

前奏曲「私は深き淵より汝に呼ばわる」J.S.バッハ

### ○讃美歌142番

1. さかえの主イエスの 十字架をあおげば  
世のとみほまれは 塵にぞひとしき  
2. 十字架のほかには ほこりはあらざれ  
この世のものみな 消えなば消えされ  
3. みよ主のみかしら み手みあしよりぞ  
めぐみとかなしみ こもごもながるる  
4. めぐみとかなしみ ひとつにとけあい  
いばらはまばゆき かむりとかがやく  
5. ああ主のめぐみに むくゆるすべなし  
ただ身とたまとを ささげてぬかずく

アーメン

### ○讃美歌336番

1. 主イエスよ、十字架を み手より受けて  
われは世のほまれ むなしき望み  
棄つとも惜しまじ ただ主によりて  
みかみの国をば 得るぞうれしき  
2. わが身のたのしみ わがもつたから  
ことごとこの世は うばい去るとも  
われはかなしまじ ただ主によりて  
みかみの富をば うるぞうれしき  
3. われはめぐみより さかえにすすみ  
のぞみはまことに いのりはうたに  
やがてかわりゆかん ただ主によりて  
みかみの愛をば うるぞうれしき

アーメン

聖餐曲「愛ゆえにわが救い主は」(マタイ受難曲第58番)  
J.S.バッハ

後奏曲「主をほめよ我が心、いまわの時まで」

S.カルクエラート

\* 礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。